

## 午後4時

ヨハネ1章35-42節

その翌日、また、ヨハネは二人の弟子と一緒にいた。そして、歩いておられるイエスを見つめて、「見よ、神の小羊だ」と言った。二人の弟子はそれを聞いて、イエスに従った。イエスは振り返り、彼らに従って来るのを見て、「何を求めているのか」と言われた。彼らが、「ラビ——『先生』という意味——どこに泊まっておられるのですか」と言うと、イエスは、「来なさい。そうすれば分かる」と言われた。そこで、彼らはずいて行って、どこにイエスが泊まっておられるかを見た。そしてその日は、イエスのもとに泊まった。午後四時ごろのことである。ヨハネの言葉を聞いて、イエスに従った二人のうち一人は、シモン・ペトロの兄弟アンデレであった。彼は、まず自分の兄弟シモンに会って、「わたしたちはメシア——『油を注がれた者』という意味——に出会った」と言った。そして、シモンをイエスのところに連れて行った。イエスは彼を見つめて、「あなたはヨハネの子シモンであるが、ケファ——『岩』という意味——と呼ぶことにする」と言われた。

### 説教

わたしたちの日常の感覚では「朝があって夕べがある」となります。でも聖書の世界では「夕べがあり朝があった」とひっくり返ります。

神は光と闇を分け、光を昼と呼び、闇を夜と呼ばれた。夕べがあり、朝があった。

第一の日である。創世記 1:4-5

ヨハネの福音書には時刻が記録されることがしばしばあります。きょうの朗読でも「午後4時ごろのことである」と記録されていて、天地創造の「夕べがあり朝があった」と通じているように感じます。朝はじまりではなくて、午後4時ごろ始まりだと時刻を記録することで鮮明になっています。

洗礼者ヨハネの弟子だったアンデレたちは師匠の「見よ、神の子羊だ」の一声でヨハネから離れます。イエスはそのアンデレたちにこういいます。ヨハ

ネ福音書が伝えるイエスの第一声はこうでした。

「何を求めているのか」

このイエスの問いに対して「どこに泊まっているのですか」と尋ねかえすアンデレにイエスは「来なさい、そうすれば分かる」と応え、アンデレは兄弟のシモンを誘いイエスのもとに泊り、イエスに従ったと記録されています。ヨハネ福音書のつたえる「イエスをめぐる物語」はこのように始まりました。そのむかしのある処で午後4時ごろイエスに出会ったアンデレたち二人は求めていたメシアを見いだしました。「来なさい、そうすれば分かる」というイエスの言葉に誘われ、一晩をメシアとともに過ごし、イエスに従うものになりました。

この「午後4時ごろ」の出来事は彼らだけに訪れた特別な一回限りの出来事なのでしょうか。わたしたちにはもう経験することのできないことなのでしょうか。もちろん現実のイエスといっしょに一晩すごすことは特別すぎてわたしたちには無理なことなのかもしれません。

しかし、思い出してください。あなたにもわたしにもこの特別な「午後4時ごろ」はあったのではないのでしょうか。ある日、目が開けイエスを主と呼ぶきっかけとなった「午後4時ごろ」はなかったのでしょうか。アンデレたちのようにドラマチックな午後4時ではなかったかもしれませんが、わたしたちにも同じような経験があったのです。そしてまだ、主を知らない人たちにも「来なさい、そうすれば分かる」ということばはある日の「午後4時ごろ」にきっと訪れます。

ふつうの日常はあさ目が覚めて一日が始まります。でも、宗教の時間は夕べに始まり朝を迎えます。夕暮れ時に始まり、深い闇をくぐって光あふれる朝を迎える、この時間感覚がイエスの救いのめぐみです。

-----